

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調

DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

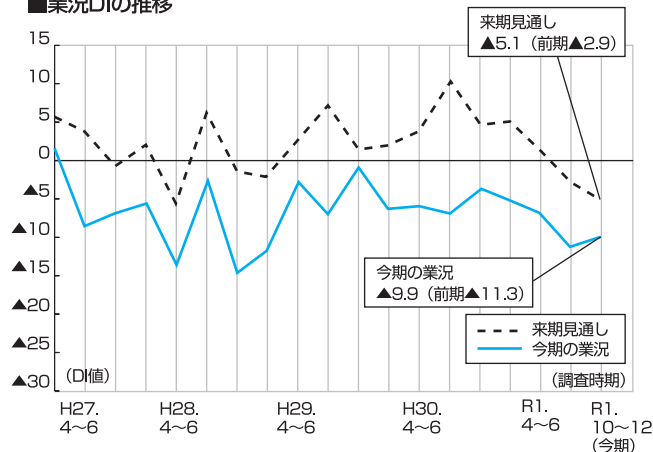
DI値	-25以下	-25~-10P未満	-10~-10P未満	10~25P未満	25P以上
景況	特に悪化 ↘	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ↗

鹿児島商工会議所

景況調査

調査期間 2019年10月~12月
回答企業数 144社

■業況DIの推移



【今期(2019年10~12月期)の景況】
全産業の業況DI値は、▲9・9
(前期比プラス1・4) ポイントで、
わずかに改善した。
産業別の業況DIを見ると、製造
業は大きく悪化した。それ以外の
業種はすべてマイナス幅が縮小した。

【来期(2020年1~3月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、▲5・1
(前期比マイナス2・2) ポイント
と、3期連続して後退している。特
に卸売業では、非常に厳しい見通し
をもっていることがうかがえる。

今期業況は緩やかに回復するも、来期見通しは引続き後退傾向。

■産業別DI値表

		前期 [2019.7~9] (A)	今期 [2019.10~12] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [2020.1~3]	
業況	全産業平均	▲11.3	▲9.9	1.4	▲5.1	→
	製造業	6.3	▲15.6	▲21.9	6.3	→
	建設業	▲7.4	0.0	7.4	3.7	→
	卸売業	▲40.0	▲31.8	8.2	▲28.6	↘
	小売業	▲16.0	▲4.3	11.7	▲4.3	→
	サービス業	▲10.8	▲2.9	7.9	▲8.6	→
売上額	全産業平均	▲9.9	▲13.3	▲3.4	▲9.9	→
	製造業	▲24.2	▲25.0	▲0.8	▲6.3	→
	建設業	7.7	0.0	▲7.7	▲3.4	→
	卸売業	▲35.0	▲37.5	▲2.5	▲8.7	→
	小売業	▲4.0	8.3	12.3	4.3	→
	サービス業	0.0	▲11.4	▲11.4	▲28.6	↘
資金繰り	全産業平均	▲3.5	▲4.9	▲1.4	▲7.7	→
	製造業	▲6.1	▲6.3	▲0.2	▲3.1	→
	建設業	11.1	3.6	▲7.5	0.0	→
	卸売業	▲25.0	▲20.8	4.2	▲21.7	↘
	小売業	▲19.2	▲12.5	6.7	▲21.7	↘
	サービス業	10.5	5.7	▲4.8	0.0	→
採算	全産業平均	▲14.9	▲7.0	7.9	▲6.4	→
	製造業	0.0	0.0	0.0	9.7	→
	建設業	0.0	6.9	6.9	3.4	→
	卸売業	▲50.0	▲30.4	19.6	▲9.1	→
	小売業	▲26.1	▲17.4	8.7	▲13.0	↘
	サービス業	▲13.2	▲2.9	10.3	▲22.9	↘

【今期の売上額・資金繰り・採算】
売上額の全産業DI値は、▲13・3
(前期比マイナス3・4) ポイン
トと低下。小売業のみ改善したが、
その他の業種は低下した。
資金繰りの全産業DI値は、▲
4・9 (前期比マイナス1・4) ポ
イントとわずかに後退した。
採算の全産業DI値は、▲7・0
(前期比プラス7・9) ポイントと
改善した。特に卸売業は、前期から
19・6ポイント増と大きく改善した。

【回答企業のコメント】
・年末商戦に向けて、消費者ニーズ
の把握に注力し、更なる売上増加
につなげたい。(小売)
・取引先経営者の高齢化が進んでい
るため、新たな販路拡大が課題。
(卸売)
・クレジットカードやQRコード等、
現金以外の決済方法を希望する顧
客が増加している。今後の手数料
負担が懸念される。(サービス)